

御 見 積 書

昭和38年二月6日

美和石炭産業株式会社 梅田義雄 殿
日吉鉱業所々長

一金 九拾圓也

¥ 90

着工 昭和 年 月 日
工事開 完了 昭和 年 月 日

但し

日吉〜大隈駅間 水波炭運搬
和志川運搬

上記の通り御見積致します



福岡県嘉穂郡嘉穂町牛隈1964番地

有限会社 藤 島 組 TEL 7080255

代表者 藤 島 金 作



御 見 積 書

昭和58年 二月 6日

大同石炭産業株式会社
日吉 鉱業部 課長

梅田 義雄 殿

一金 貳百九拾圓七

¥290

着工 昭和 年 月 日
工事期間 完了 昭和 年 月 日

照し

日吉へ最速河豆炭運搬北基運搬
製石部給工トクノ台1台に5名未満の
積載量で有ってもトクノ台1台に5名未満
計乗時

上記の通り御見積致します



福岡県直轄郡志摩町牛根1964番地

有限会社 藤 島 雄 TEL 大田258

代表者 藤 島 金 作



庄

決 裁	所内		申請番号 34	
専断取締役		常務取締役		部長 副部長
費目別		所長		関係課
配・費・業費				
件名	300 巻上機解体工事		概算	135,000
発注先	桜田鉄工所		着手予定日	昭和38年1月25日
			完成予定日	昭和38年2月10日
納期	15日以内支払条件		契約方法	見積
品名又は名称	規格又は型式	数量	単位	単価
解体運搬工賃		70 人	1,600	112,000
運賃		3 日	4,000	12,000
解体運搬費		1 式	11,000	11,000
解体運搬費は空家と提供す。				
		計		135,000
理由				
町谷2R敷内に据付けの牛車巻は近鉄 にある300HR巻上機を譲り受け使用すること になつて居りますので之を解体工事を桜田鉄工所 に請負はし撤去を依頼致します。				

原価一円五銭五厘

(税別原価1円6)

第32 1×100×50



[illegible]

決	所 内		申請番号 46 30	
裁	審 議 書			
専務取締役	常務取締役	部 長	関 係 部 課	
費 目 別	所 長	関 係 課	案	
起・費・費	費	費	費	
件 名	辻成硬水沈殿装置工事		金 額	38,000
商 標	大森鉄工所	前手予定日	昭和37年11月30日	
納 期	支払条件	完成予定日	昭和37年12月5日	
品名又は名称	規格又は型式	数 量	単 価	金 額
円型スクリーン	移送	1 台		
全長100cm 幅150cm				
給水管 布設				
100mm径 埋設管 10m				
ホース 10m				
ホース 10m				
計				38,000
要 由 今回辻成の硬水沈殿装置受入れに当り 積炭を ポンプ三輪車に積み込む様にするため上記 鉄工工事大森鉄工所に頼む程度案議致し ます。尚この工事費は辻成負担。				

5銭一圓四角五分

(社式出第1号B)

第12 1×100×50

[illegible]

稟議

久為米匠大謝禮

前題の件、右帝陵監理医師石儀軒（筆名）一休村
殿に、前禮を煩ひ、此の支拂のし方、何と申すやと仰臨
可なり

記

一、名儀新 田、倉、一、五、十、月、五、月、

金吾

一、教家訓禮 五羊湖台

金老刀

梅園義館

御礼は
居聲善具書甲の
御礼とすなり

御札

御札

合供計口更數人

11

市は

醫藥考異大略

1872

...

決	所 内		原簿番号 46 528	
裁	高 議 費			
専務取締役	常務取締役	部	長	関係部署
費 目 別	所 属	関 係 課	起 算	率
起・費・業 費				
件 名	扇風機撤収運搬工事		金額	27,000
発注先	大森鉄工所		着手予定日	昭和37年12月15日
			完成予定日	昭和37年12月20日
納 期	支払条件 翌月払		契約方法	
品名又は名称	規格又は形式	数 量	単 価	金 額
扇風機	解体引出	1 式		19,000
〃	運搬	1 式		4,500
諸経費		1 式		3,500
		計		27,000
理由 村谷2号坑内に据付けの75HP羽流扇風機 を此坑内より撤収し当坑村谷2号坑内 の所で運搬する工事を上記の通り田川市 大森鉄工所に請負つて廃棄致します。				

原簿一頁印刷費5円

(形式部第1号目)

35 12 3×100×38



民	所内		協議番号 16 27	
品	議 議 書			
専務取締役	常務取締役	部 長	関係部署	
費 目	別 所 長	係 課	起 案	
起 (費) 車 費				
件 名	自転車用庫建築工事		金 額	32,590
発注先	藤島組 藤島金作		着手予定日	昭和37年11月10日
			完成予定日	昭和37年11月20日
納 期	支払条件	契約方法		
品名又は名称	規格又は型式	数量	単位	単価
労働費				32,590
計				32,590
理由 労働者に対し現在の自転車用庫では金自転車に格納できぬので、労働課に格納庫を建築致し、更に要談致す。 尚、本所内時計破壊増止器の解体使用に付				

別紙一表は別紙5頁

(10式用紙1号B)

第 37 1号188450



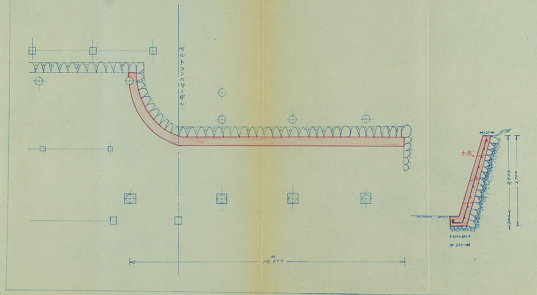
決	山元		申請番号 16 23	
設	富 議 審			
専務取締役	専務取締役	部 長	関係部課	
費 目 別	用 途	課 目	起 算	家
起・費・費	費	費	費	費
件 名	海入ボット附近 石垣補強工事		金 額	80,187 圓
発注先	森 昌 組		着手予定日	昭和 年 月 日
			完成予定日	昭和 年 月 日
納 期	支払条件		契約方法	
品名又は名称	規格又は型式	数 量	単 位	単 価
学 費 費				21,536
学 費 費				14,400
費 料 費				48,251
計				80,187
理由 該案議事第2区域は海入保茨根附近の棧橋及補石ボットの設置区域で端端五尺層の接合による浸水設備に被害を及ぼすといふ区域であるが7月7日の豪雨により浸水作用を起して石垣の一部が崩壊し、そこで応急措置を施しているが早急の復旧しなけりば棧橋の一部が崩壊し、補石ボットの基礎は崩壊し、浸水が及ぼすので別紙内訳の通りの工事費を稟議致す。				

富議一便付用紙5第

(様式別添2号B)

35-32 5×100×53

海入坑換炭棧附近石垣補強設計圖 S300



山ノ内 25

稟議

板院管理看名案賊種立松子伴

前題に同じ光井殿長祿後久南米屋大福田俊
正布紅菱を借用初陸徳統と申し今伯と申し二赤分
指替初菱科としと色大田留置之に寄金一十兩一分金四十四
兩上申四月分寄託の由を和紙に記しおとす年々いひ
賜可といひ

卷

管理名義私印

金田万作
在幕府
梅田義雄殿



長 影	課 展 著
出 所 	號
目 次	決 意
出 版	附 物
 長興社藏	年
 紅土保	月
	日
保 護 官	昭 和
福 院	17 年
	7 月
寄 取 費	不 取 掛 費
	

決	(所 内)		書類番号 46 24	
監	副 議 事			
専 務 取 締 役	常 務 取 締 役	部 長	関 係 部 課	
費 目 別	所 長	製 造 課	技 術 課	家
配・費・消 費				
件 名	100馬力コンプレッサ 金解牛人運搬機付工事		金 額	25,000
発注先	花田鉄工所		着手予定日	昭和27年8月22日
			完成予定日	昭和27年8月10日
納 期	支払条件		契約方法	
品名又は名称	規格又は型式	数 量	単 価	金 額
金解牛人		10人	1000	10,000
運搬機		1台		3,000
燃料		8人	1000	8,000
諸経費		1人		4,000
		計		25,000
理 由 上記以外に振付手続の100馬力コンプレッサを 右表以外に振付けたことによりましたので 上記工率を 花田鉄工所に発注致し度く 蒙 裁 致 します。				

快	所内		原簿番号 22	
徴	寮 請 書			
専務取締役	常務取締役	部 長	関係部署	
費 目 別	所 長	調 査	無 記	配
起 (計) 業 費				
件 名	久保給付増築費 12600			
発注先	最良組 最良金作		着手予定日	昭和 年 月 日
			完成予定日	昭和 年 月 日
結 算	支払条件		契約方法	
品名又は名称	規格又は型式	数 量	単位	単 価
労人費 最良組				12600
計				12600
理由 現在中子線検査所を建設しておりますが、給水塔の設置上自給水で運転する様には当省を申請させる事になり、その上家を増築致し、(果敢)致します。				

※第一欄は省略可

(様式第1号第1)

※ 22. 1×100×50



決	所内		原簿番号 AG 21	
議	議 議 書			
専務取締役	常務取締役	部 長	関係部署	
費 目 別	所 部	開 係 課	起 案	
起・経・業 費				
件 名	有限会社森田組		52676	
発注先	有限会社森田組		37年 6月 15日	
納 期	支払条件		37年 6月 30日	
品名又は名称	規格又は型式	数 量	単 位	単 価
着 材 費				34302 社 給
男 人 費				18344
計				52676
理由 現在入浴者此脱衣場が狭く更衣が不便であるため脱衣場を改造致し度々懇談致す。				

単位＝単位換算 5 部

(様式第 1 号 2)

第 12 1x100x60





民	社内		依頼番号 42 18	
段	庶 務 課			
専務取締役	常務取締役	部長	関係部署	
費 目 別	所 長	関 係 課	起 案	
起(要)業費	315.5	315.5	315.5	315.5
件 名	日本経済新聞社 79.447			
発注先	日本経済新聞社	着手予定日	87.5.15	日
代表者 森田金作		完成予定日	87.5.31	日
納 期	支払条件	契約方法		
品名又は名称	規格又は形式	数量	単位	単価
新聞費	略			40411
男△費				59026
計				79447
備 考 男△費と新聞費根拠が破損致しており 寸法で補修致し復元致す。				

会社一課目録第3部

(様式第1号A)

第12 1=300g50



號	山 元		原圖番号 42	
版	第 一 稿			
專 務 取 締 役		常 務 取 締 役		部 長
關 係 部 課				
費 目 別	所 長	關 係 課	記 帳	備 考
起・費・業 費 費	1000円	1000円	1000円	1000円
件 名	山元大郎 請員探知			
宛先	山元大郎 請員探知			
期 間	1000円			
品名又は名称	山元大郎 請員探知			
規格又は形式	山元大郎 請員探知			
数量	1	1	1	1
単位	1	1	1	1
金額	1000円	1000円	1000円	1000円
備考	山元大郎 請員探知			

步建一保日保數 5 期

《程氏家範》卷1 明題)

35.12 $1 \times 300 \times 50$

日吉二坑(南郷)坑口生産原価計算表

出 入 数	物 品 費 (A)										勞 務 費 (B)										減損	合計	決定 消費率 原価
	坑 木					火 車 費					坑 内					坑 外							
	全額	全額	全額	全額	全額	全額	全額	全額	全額	全額	全額	全額	全額	全額	全額	全額	全額						
神田	日	6.4	978	98	1,046	12	904	240	2,670	4	2144	4	2844	1	434	5	6,928	1.28%	10.35%				
200	月	10	17360	120	30,140	960	18,720	6,000	65,830	400	77,600	40	77,100	42	18,780	142	166,350	22.19%	26.897%				
合計	合計	964	98,778	218	151,886	216	90,640	6,240	72,470	404	79,744	44	77,500	46	19,260	147	186,710	23.48%	28.00%				

備考

(A) 物品費に付いて

1. 坑木

本坑より採出された坑木は、坑内消費分を除き、坑外消費分に属する。

2. 火車費

坑内消費分を除き、坑外消費分に属する。

3. 諸費

坑内消費分を除き、坑外消費分に属する。

坑内消費分を除き、坑外消費分に属する。

坑内消費分を除き、坑外消費分に属する。

坑内消費分を除き、坑外消費分に属する。

坑内消費分を除き、坑外消費分に属する。

(B) 勞務費に付いて

本坑より採出された坑木は、坑内消費分を除き、坑外消費分に属する。

坑内消費分を除き、坑外消費分に属する。

坑内消費分を除き、坑外消費分に属する。

坑内消費分を除き、坑外消費分に属する。

坑内消費分を除き、坑外消費分に属する。

(C) 諸費に付いて

本坑より採出された坑木は、坑内消費分を除き、坑外消費分に属する。

坑内消費分を除き、坑外消費分に属する。

坑内消費分を除き、坑外消費分に属する。

坑内消費分を除き、坑外消費分に属する。

坑内消費分を除き、坑外消費分に属する。



決	所内		原簿番号 A2 15	
長	庶 議 書			
専務取締役	常務取締役	部 長	関係部署	
買 入 別	所 長	税 務 課	記 帳 室	
総・費・費				
件 名	スクラブ雑用設備工事		金 額	192954 円
発注先	株式会社 上 田 屋 有限会社 平野園芸店		着手予定日	昭和 37 年 4 月 1 日
			完成予定日	昭和 37 年 3 月 30 日
納 期	支払条件		契約方法	
品名又は名称	規格又は型式	数 量	単 位	単 価
勞 務 費				192954
計				192954
原 由 スクラブ雑用工事は昭和 34 年下期本社裏庭第 33-34 号にて許可されましたが工事経期のため全工事とも若干の変更がありますので、再就真議致します。				

単位→税別原簿5部

(様式第1号B)

第 32 号 14100×30

供 出	山元		原簿番号 42		14
品 名	宮 議 書		本館事件 110.100		工事一部
専務取締役	専務取締役	部 長	関 係 部 課		
費 目 別	所 長	課 長	課 長	課 長	課 長
配・費・費	費	費	費	費	費
件 名	日産二坑運炭船工務		78720 円		
発注先	上 田 青 森		着手予定日	昭和27年 4月 12日	
			完成予定日	昭和27年 5月 12日	
納 期	2月 4日	支払条件	4月 7日	契約方法	指 命
品名又は名称	規格又は型式	数量	単位	単価	金額
海陸運搬土		100	立方	1,500円	1,500,000円
海陸運搬土		100	立方	300	300,000円
海陸運搬土		100	立方	1,200	1,200,000円
海陸運搬土		100	立方	400	400,000円
計					4,400,000円
繰 越 費					1,200,000円
合 計					5,600,000円
理 由					
新築の建り					

新築一階五層建5部

(建設費別1号目)

35-37 1x180x50



理由

最近までの日吉二坑は、層部の一部を簡易採掘し、深部の本邦の排水準備を確保し乍ら、取柄製造を行う程度であつたが、今回一坑越山予想に備えての代替出炭準備及掘石の増産態勢等のため、根本的な検討を行い、その計画立案を基準とし二坑坑内開発の急務工事を行うことに決定し、その実施段階に入っている坑内現状である。

坑外の現状は従来まで掘及掘削少量であつたので、臨時応急的な措置として原炭は坑口右側地区の、のり層部に土場貯炭をなし、坑内掘は坑口上部左方向の小谷間地区に掘進を実施中である。

然し乍ら該地区の掘進量も限界に達しつつある。

従つてこの坑坑外の掘進場および掘進方法も坑内開発に併行し、又原炭の処理等を勘案して、根本的に変更設定するものが、目下の急務である。故に日吉二坑の今後の開発および出炭計画等について、総合的に協議検討した結果、少くとも二坑掘石月産1200Tを予想され、この出炭に対応した原炭及坑内掘の処理方法としては、二坑原炭ボケットを現在工事中のスクラップ掘ボケット機に新設し、現有の日吉100T掘巻で原炭及坑内掘を巻揚げ、原炭は新設の二坑原炭ボケットに入れ、坑内掘は工事中のスクラップ掘ボケットに入れて処理することが得策である。

この格闘方法に照り、取敢えず掘進場の現状行き止まりの打開策のため、第一期工事としては、上記掘進掘巻方法として既設掘削図に示す如く、二坑坑口より現在使用の一坑水洗便線に給ぶ側に掘削掘削工事を緊急に施工致したく願ひ致します。

工事見極限は上記の通りであります。

この掘削工事が完成すれば、取敢えず現状の掘進方法を採用しますが、スクラップ掘ボケットが完成しても之に容易に搬入出来るが、又新設予定計画の原炭ボケット（スクラップ掘ボケット機）に搬入出来ることは暫うまでもありません。

役		所内	原簿番号	A6	B
席		席議書			
専任取締役	常務取締役	部	長	副部長	課長
費目別	所長	関係費	記	密	
起(費)用費	(A7)	(B1)	(B2)	(B3)	(B4)
件名	トナ屋根塗装工事	金額	9,330		
期注先	平野塗装店	着手予定日	昭和27年4月20日		
納期	支払条件	完成予定日	昭和27年4月30日		
品名又は名称	展覧又は形式	数量	単位	単価	金額
タマシ		155坪	60		9,330
計					9,330
理由	昭及旧地区トナ屋根腐蝕防止のためコバルトを塗装紋に度々要議致します。 尚毎月50坪程度9月まで順次塗装工事を実施に行く予定です。				

日吉、才田釜炭運搬費について

△ 才田釜炭運搬所要時間

往復時間	40分	雇合待ち時間を含む
積込時間	10分	ボケット抜き準備時間を含む
読込時間	20分	
計	60分	

△ 日吉釜炭運搬所要時間

往復時間	20分	
積込時間	10分	ボケット抜き準備時間を含む
読込時間	20分	
汽船場へ運搬時間	20分	
計	60分	

上記所要時間の累計に依り所要時間は才田、日吉共に平均
60分の作業時間とする作業量であるので、三輪車常
置の場合2000円の賃金とすれば $2000円 \div 4時間 = 500円$
となるので三輪車一台（4.25馬力）に付き500円果樹
水炭運搬であると想定されますので、日吉、才田釜炭運搬
費については1台500円の単価を申請致します。
(2000円 + 2.25馬力 = 1200円₁₅)

決	(新内)		原簿番号 A2/10	
議	議 議 書			
専務取締役	専務取締役	部 長	関 係 部 課	
費 目 別	所 長	関 係 課	起 案	
給・費・業 費			304.12 304.12 304.12 304.12 304.12 304.12	
件 名	20F水洗脱着機取立工事 金 27,800 円			
発注先	基田鉄工所		着手予定日 昭和 27 年 6 月 20 日 受取予定日 昭和 27 年 7 月 20 日	
納 期	支払条件		契約方法	
品名又は名称	規格又は型式	数 量	単 位	単 価
20F水洗脱着機取立	ノ 式			27,800
計				27,800
理 由 20F水洗脱着機は九個の超高鋼鉄塔塔身の必要 上取寄せになりますが、昨年の関係で当年度 内では出来兼ねますので、上記の通り課食に附し 高価申上げます。				

当年度一限取附第五号

(用式B第1号B)

第 22 頁 1×100×58

決	所収		申請番号 142 9	
裁	審 議 書			
専務取締役	常務取締役	部 長	関 係 部 課	
費 目 割 配 率	所 収 割 配 率	記 率		
配(費)・率 費	3/3.28	3/3.28	3/3.28	3/3.28
件 名	日吉校区住宅補修工事		金 額	278,063
発注先	有限会社藤島組		着手予定日	昭和57年4月2日
			完成予定日	昭和57年11月30日
納 期	支払条件	契約方法		
品名又は名称	規格又は形式	数量	単位	単 価
資材費	給	30	坪	144,163
労人費	藤島組			131,900
計				278,063
事由 日吉五区住宅地盤沈下のため居住に耐乏 乏の状態であり、補修に耐乏不足の 折損地盤補修を致し、更なる補修を要す。				

仕様一欄に明記する

(様式第1号第1)

第12、1×100×100



山元	第 8	第 10	第 11	第 12	第 13	第 14	第 15	第 16	第 17	第 18	第 19	第 20	第 21	第 22	第 23	第 24	第 25	第 26	第 27	第 28	第 29	第 30	第 31	第 32	第 33	第 34	第 35	第 36	第 37	第 38	第 39	第 40	第 41	第 42	第 43	第 44	第 45	第 46	第 47	第 48	第 49	第 50	第 51	第 52	第 53	第 54	第 55	第 56	第 57	第 58	第 59	第 60	第 61	第 62	第 63	第 64	第 65	第 66	第 67	第 68	第 69	第 70	第 71	第 72	第 73	第 74	第 75	第 76	第 77	第 78	第 79	第 80	第 81	第 82	第 83	第 84	第 85	第 86	第 87	第 88	第 89	第 90	第 91	第 92	第 93	第 94	第 95	第 96	第 97	第 98	第 99	第 100
----	-----	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	-------

稟 議

久馬米匠大協坂外軒放授謝禮の件
 首題、件は同、省、陽、道、外、軒、匠、師、の
 仲、引、得、致、し、交、存、し、所、り、し、た、り、交、は、交、
 佐、業、員、一、元、其、他、匠、師、の、家、族、等、の、手、術、を、行、
 じ、に、お、本、の、手、術、を、依、頼、手、術、を、お、
 次、記、の、謝、禮、金、を、贈、呈、し、相、得、の、善、人、と
 衆、お、お、し、存、し、ま、す、市、記、万、下、
 謝、禮、金、二、万、第、
 右、常、議、所、上、
 瑞、芳、所、の、長、梅、田、系、米、作、殿

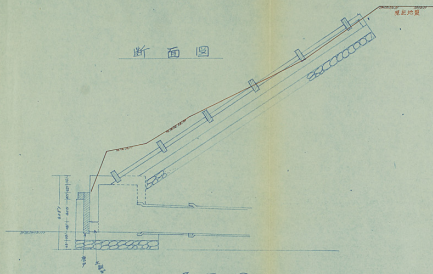


五反田溜池水門設計圖 縮尺三十分之一

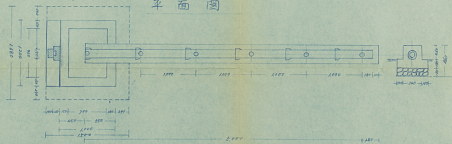
No. 7.

61-3-15

断面圖



平面圖



昭和37年3月起案

五 爭 稟 議 書

立業

解

44

No 7



五事施五者

竹長	皮長	細長	漆長	主登	主登
37.5.01	37.5.01	37.5.01	37.5.01	37.5.01	37.5.01

工程名称	五里河池水門設置工程	
工程金額	材料費	18,160.00
	資材費	6,155
	合計金額	24,315

五事期間	
施五方法	

互事内訊

序号	名称	单位	规格	数量	单价	金额	备注
管	塑料管	人工	人	3	850	2550	
	塑料管	人工	人	3	850	2550	
	塑料管	人工	人	2	380	760	
管	塑料管	人工	人	1	405	405	
	塑料管	m ²		1.14		1.14	
	塑料管	人工	人	1	380	380	
管	塑料管	人工	人	3	380	1140	
	塑料管	人工	人	2	380	760	
	塑料管	人工	人	1	380	380	
管	塑料管	m ²		2.5	80	200	2.5*80=200
	塑料管	人工	人	5.0	4.5	22.5	5.0*4.5=22.5
	塑料管					12.23	
管	塑料管	人工	人			4.77	
	塑料管					14360	
	塑料管					3800	
管	塑料管					18.160	

昭和27年4月 起算

工事稟議書

立派

藤

橋

工事経費

所長

正長

課長

技師

主査

金庫

工事名称

工事内容

分科費

資材費

6,155円

その他費

工事期間

施工方法

工事内訳

費目	名称	型式仕称	単位	数量	単価	金額	備考
資	セメント		袋	6	210	2,170	
資	川砂		m ³	1	650	650	
	砂利		"	1	1,100	1,100	
	土管		本	6	190	1,140	
材	洋釘		kg	7	55	385	
	小計					5,045	
費	杉板製作費	20×40×2000	m ²	20.28	17,000	3,448	資材費
	松板製作	50×20×1000	"	20.28	14,000	2,848	
	松板の運送料	10×10×2000	本	2	165	330	
材	杉板	45板	片	65	290	6,370	資材費
	小計					710	松板の運送料 290×2=580 杉板の運送料 20×2=40
	計					6,155	

決	社内		書類番号 42 6	
裁	常 務 監 査			
専務取締役	常務取締役	部 長	関係部署	
費 目 別	所 長	制 係 課	記 期	
記・費・業 費				
件 名	豆麦畑排水工事		金 額	3,880
発注先	有限会社 藤島組		着手予定日	昭和37年3月2日
納 期	支払条件		完成予定日	昭和37年3月18日
品名又は名称	規格又は型式	数 量	単 位	単 価
労 働 費				3,880
計				3,880
理由 豆麦畑上表を解体し雨水を 場内へ流入し排水を敷設 工費を要する。				

原簿一紙五部取5部

(訂式原簿1月1日)

35-37 1×100×50



決	原簿番号 42 5		
裁	審 議 書		
専務取締役	常務取締役	部長 関係部署	
費 目 別 所 長 関 係 部 紀 案 配・費・業 費 費 費 費 費 費			
件 名	水洗車トラック運搬 (新築地へ1500kg/回)	金 額 1/宛当 35,000	
発注先	筑豊通運株式会社	着手予定日 昭和37年 2月 8日 完成予定日 昭和37年 2月 15日	
納 期	支払条件	契約方法	
品名又は名称	規格又は型式	数 量 単位 単価 金額 備 考	
水洗車運搬	大形トラック 1台	1 台 35,000 35,000	
理 由			
現在使用中の大型トラックが定期車検検査 準備のため工場にメ工致はすので、より運 搬能力を2台に雇用致しますので、手代致しす 自 37.2.7. } 9日間 至 37.2.15.			

新築・関係部第3号

(10式原簿第1号)

35.37. 1×100×50

御見積書

共同日吉

初中

昭和 27 年 2 月 1 日

毎度御引立に預り有難く御礼申し上げます
下記の通知見直ししますので御下命の程願います

御開会月日 昭和37年 2月 / 日

工事名 造り直し

受渡場所

一畝水荒場 ~ 大隈段
及方田

合計金額 ¥ 85 千円

營業科目

快速清物取錢 (車、選、小、四、錢、有、看)

一、經濟學意義（「ラジタ・二重」）

植物保險雜誌 | 運送保險 • 大友泰

通 筑豊通運株式会社

二、地址：TEL. 730-1761

◆投資運用 TEL (03) 5561-2440

中竹圖書公司 TEL (02) 265-1551 FAX (02) 265-1552

[illegible]

書 鮮 貝 硯

中 冊



上海古籍出版社

上海古籍出版社
地址：上海四川路
電話：二二三三



書名	書 鮮 貝 硯	冊數	2	冊
著者	貝 硯	編者	貝 硯	冊
出版年	1955	印數	145	冊
定價	2.60元	實價	2.00元	冊
備註	41.600			



使 員	所 内		原簿番号 42	
専務取締役	常務取締役	部 長	関係部署	
費 目 別		所 長	総 務 課	
起・費・業 費		   		
件 名		特定煙火防炎調査工事金 額 22,630 22,630		
発注先		着手予定日 昭和27年1月12日 完成予定日 昭和27年1月23日		
納 期	支払条件	契約方法		
品名又は名称	規格又は型式	数 量	単 価	備 考
本田煙火煙火ア2 取付	/ 式	1	8,882	
日本煙火煙火ア2 取付	/ 式	1	8,040	2-10-1
森田煙火煙火ア2 取付	/ 式	1	6,990	
足場材 取付	/ 式	1	5,458	
			1,800	
			計	22,630

理由 数年前本田煙火の煙火より火の子が飛んで物等に
火災を起したため煙火に防炎ア2を取付ければ
燃焼のため用事な状態でありたる日森田煙火より火の
子で引火して燃焼した。日本煙火も付いたクモの
利便性な状態でありたる上取工事外社に依頼
する。(全社、コープ等共済会委託)

検討事項 ① 本田煙火煙火煙火ア2防炎網の取付
② 煙火取付
③ 煙火網の工事費

単位：100円単位

(原簿第1号目)

35.12 1×100×28



決	11月		原簿番号 42 17	
徴	賞 議 費			
専務取締役	常務取締役	部 長	関係部署	
賞 注 對 所 長	関 係 部 長	起 案		
起 (目) 業 費				
件 名	貸入部便槽設置工事	金 額	10378	
発注先	有限会社 藤 野 組	着手予定日	昭和36年12月29日	日
		完成予定日	昭和36年12月31日	日
納 期	支払条件	契約方法		
品名又は名称	規格又は形式	数量	単価	金 額
賞 状 費	花 給			39.10
労 人 費				6468
計				10378
備 考 現在使用している便槽は浅いため臭気か 致し来客等の不快な感をおこすの で緊急で改修便議致します				

原簿一冊に添付5葉

(様式別添1号用)

第12 1×100×30



昭和16年12月期 五車票試算 1016

五車票試算	所費	利息	利息	五車票試算	五車票試算
上田孝子					

五車票試算	五車票試算	五車票試算	五車票試算
五車票試算	五車票試算	五車票試算	五車票試算
五車票試算	五車票試算	五車票試算	五車票試算
五車票試算	五車票試算	五車票試算	五車票試算

日	石	包	計	計	計	計	計
1	10	10	10	10	10	10	10
2	10	10	10	10	10	10	10
3	10	10	10	10	10	10	10
4	10	10	10	10	10	10	10
5	10	10	10	10	10	10	10
6	10	10	10	10	10	10	10
7	10	10	10	10	10	10	10
8	10	10	10	10	10	10	10
9	10	10	10	10	10	10	10
10	10	10	10	10	10	10	10
11	10	10	10	10	10	10	10
12	10	10	10	10	10	10	10
13	10	10	10	10	10	10	10
14	10	10	10	10	10	10	10
15	10	10	10	10	10	10	10
16	10	10	10	10	10	10	10
17	10	10	10	10	10	10	10
18	10	10	10	10	10	10	10
19	10	10	10	10	10	10	10
20	10	10	10	10	10	10	10
21	10	10	10	10	10	10	10
22	10	10	10	10	10	10	10
23	10	10	10	10	10	10	10
24	10	10	10	10	10	10	10
25	10	10	10	10	10	10	10
26	10	10	10	10	10	10	10
27	10	10	10	10	10	10	10
28	10	10	10	10	10	10	10
29	10	10	10	10	10	10	10
30	10	10	10	10	10	10	10
31	10	10	10	10	10	10	10
32	10	10	10	10	10	10	10
33	10	10	10	10	10	10	10
34	10	10	10	10	10	10	10
35	10	10	10	10	10	10	10
36	10	10	10	10	10	10	10
37	10	10	10	10	10	10	10
38	10	10	10	10	10	10	10
39	10	10	10	10	10	10	10
40	10	10	10	10	10	10	10
41	10	10	10	10	10	10	10
42	10	10	10	10	10	10	10
43	10	10	10	10	10	10	10
44	10	10	10	10	10	10	10
45	10	10	10	10	10	10	10
46	10	10	10	10	10	10	10
47	10	10	10	10	10	10	10
48	10	10	10	10	10	10	10
49	10	10	10	10	10	10	10
50	10	10	10	10	10	10	10
51	10	10	10	10	10	10	10
52	10	10	10	10	10	10	10
53	10	10	10	10	10	10	10
54	10	10	10	10	10	10	10
55	10	10	10	10	10	10	10
56	10	10	10	10	10	10	10
57	10	10	10	10	10	10	10
58	10	10	10	10	10	10	10
59	10	10	10	10	10	10	10
60	10	10	10	10	10	10	10
61	10	10	10	10	10	10	10
62	10	10	10	10	10	10	10
63	10	10	10	10	10	10	10
64	10	10	10	10	10	10	10
65	10	10	10	10	10	10	10
66	10	10	10	10	10	10	10
67	10	10	10	10	10	10	10
68	10	10	10	10	10	10	10
69	10	10	10	10	10	10	10
70	10	10	10	10	10	10	10
71	10	10	10	10	10	10	10
72	10	10	10	10	10	10	10
73	10	10	10	10	10	10	10
74	10	10	10	10	10	10	10
75	10	10	10	10	10	10	10
76	10	10	10	10	10	10	10
77	10	10	10	10	10	10	10
78	10	10	10	10	10	10	10
79	10	10	10	10	10	10	10
80	10	10	10	10	10	10	10
81	10	10	10	10	10	10	10
82	10	10	10	10	10	10	10
83	10	10	10	10	10	10	10
84	10	10	10	10	10	10	10
85	10	10	10	10	10	10	10
86	10	10	10	10	10	10	10
87	10	10	10	10	10	10	10
88	10	10	10	10	10	10	10
89	10	10	10	10	10	10	10
90	10	10	10	10	10	10	10
91	10	10	10	10	10	10	10
92	10	10	10	10	10	10	10
93	10	10	10	10	10	10	10
94	10	10	10	10	10	10	10
95	10	10	10	10	10	10	10
96	10	10	10	10	10	10	10
97	10	10	10	10	10	10	10
98	10	10	10	10	10	10	10
99	10	10	10	10	10	10	10
100	10	10	10	10	10	10	10

決	所内		出願番号 A2 15	
装	選 議 書			
専務取締役	常務取締役	部 長	関係部署	
費 目 別	所 長	関 係 課 長	秘 書 室	
記・(外) 業 費				
作 名	特許権中地専用 和光化学		金 額	23,905
発注先	和光化学 株式会社 藤島組		着手予定日	昭和27年11月10日
			受取予定日	昭和27年11月15日
納 期	支払条件	契約方法		
品名又は名称	規格又は形式	数量	単位	単価
材料費	社 給			12,945
労 働 費				9,960
計				23,905

理由一 特許権は現在の特許は約2,000件あり
 うち中地は約80%の特許に含められているため
 これを別途処理して中地としない場合4,000件の特許が
 4,500件の中地となり80%×500×40,000の月間
 利益を得る。従って特許取得に要する費用は
 尚材料は材料を使用する

規格一 国土地法第5条

(形式原簿 1 冊)

25. 27. 1 × 100 × 28



機	新内		原簿番号 A2	14
長	高 議 部			
専務取締役	常務取締役	部 長	関係部課	
費 目 別	所 長	関 係 課	起 算	期 間
起・算・業 費				
件 名	竹野 J000P 巻上機 中国シャフト 仕上修繕工事		金 額	22000 円
発注先	直方市 松田鉄工所		着手予定日	昭和 26 年 12 月 3 日
			完成予定日	昭和 26 年 12 月 3 日
納 期	支払条件		取付方法	
品名又は名称	規格又は形式	数 量	単 価	金 額
運 搬 費	直方(運搬)	1 台	1300	1300
シャフト・ピオン修理仕上加工		1 本	13000	13000
シャフトのキイ溝仕上加工		1 本	8500	8500
キイ 増設肉瘤仕上加工		1 本	2000	2000
運搬費	直方～日吉	1 台	1000	1000
			計	22000

事 由 竹野 J000P 巻上機の中間ピオン歯欠けのため新製
 中間ピオンと取替えなければならないので、12月2日土曜
 日より工事になり中間ピオンと中間大歯車をシャフトより
 抜き当所の旋盤にてシャフトを削り仕上しキイ溝を削り直して
 中間ピオンと中間大歯車をシャフトに入れ12月3日公休
 日中に完成する予定でしたが工事中、中間大歯車がどう
 しても抜けないため当所の旋盤にかけられず、実質工事とし
 て松田鉄工所に外注して戻し戻します。

単位：円(千円以下)

(印式B第1号D)

紙 22 1×100×50



民	所収		原簿番号 42 //	
品	宮 議 事			
専務取締役	常務取締役	部 長	課 長 部 課	
費 目 別	所 長	備 考	区 画	記 号
起(費)費費				
件 名	外資硬カーが基礎工事		全 額	6.600
発注先	有限会社 藤島組		着手予定日	昭和36年11月27日
			完成予定日	昭和36年11月30日
納 期	支払条件		契約方法	
品名又は名称	規格又は型式	数 量	単 位	金 額
外資				6.600
計				6.600
理由 硬場カーグラアンカーボルトが折損しカーグラの運転が出来ませんので至急工事致し度く 稟議致します。				

宮議一紙は原簿5部

(原簿原簿1部)

第 37 1=100×50



決	所収		庶務番号 46 10			
品	議 議 書					
専務取締役	常務取締役	部 長	関係部署			
費 目 別	所 属	関 係 部 課	起 案			
起・(性) 費 費						
件 名	八重宝のついで橋		金 額	52,100		
発注先	有限会社 藤野組		着手予定日	昭和36年12月10日		
納 期	支払条件		完成予定日	昭和36年12月20日		
品名又は名称	規格又は型式	数量	単位	単価	金額	備 考
労人費					52,100	
計					52,100	
理由 崩石を撤去し之を詰めた隙露みですと 雨天の場合崩石が滑り落ちて土を構築 致し深く果敢致し封。						

3) 工事效果

1. 前次工事後、海入管、沿岸地帯を通過せしむ。
海入管の断面は20cm、地帯断面、確認せしむ。
2. 沿岸地帯、海入管、沿岸地帯、距離は300m、400m、500m。
沿岸地帯の断面は20cm、地帯断面、確認せしむ。
3. 然し、沿岸地帯、距離、100m、200m、300m、400m、500m。
沿岸地帯の断面は20cm、地帯断面、確認せしむ。
4. 又、沿岸地帯、距離、100m、200m、300m、400m、500m。
沿岸地帯の断面は20cm、地帯断面、確認せしむ。
5. 予想(工事)海入管、沿岸地帯、距離、100m、200m、300m、400m、500m。
沿岸地帯の断面は20cm、地帯断面、確認せしむ。

4) 予定通過量と、通過規格

先分右一岸(通過)、左一岸(通過)、右二岸(通過)、右三岸(通過)。
全面面積、一岸(通過)、二岸(通過)、三岸(通過)、四岸(通過)。
右一岸(通過)、100m、200m、300m、400m、500m。
右二岸(通過)、100m、200m、300m、400m、500m。
(別紙用面参照) 100m、200m、300m、400m、500m。

5) 予想可採容量

先一期、本工事、右一岸(通過)、可採容量は下記、100m、200m、300m、400m、500m。
二期、工事効果、100m、200m、300m、400m、500m。
三期、工事効果、100m、200m、300m、400m、500m。
四期、工事効果、100m、200m、300m、400m、500m。

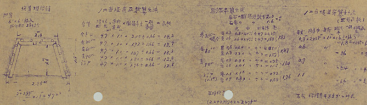
算出方法

1. 算出方法、右一岸(通過)、可採容量は下記、100m、200m、300m、400m、500m。
又、右一岸(通過)、可採容量は下記、100m、200m、300m、400m、500m。
算出方法、右一岸(通過)、可採容量は下記、100m、200m、300m、400m、500m。
2. 算出方法、右一岸(通過)、可採容量は下記、100m、200m、300m、400m、500m。
算出方法、右一岸(通過)、可採容量は下記、100m、200m、300m、400m、500m。

新式球道草帽架 (M. 4)

规格	名称	材料	数量										单位	合计	备注
			材料名称	规格	数量	材料名称	规格	数量	材料名称	规格	数量	材料名称	规格		
2.4m 1.8m 0.8m 0.7m	草帽架	木料	木料	2.4m x 1.8m	1	木料	2.4m x 1.8m	1	木料	2.4m x 1.8m	1	木料	2.4m x 1.8m	1	1
	草帽架	木料	木料	2.4m x 1.8m	1	木料	2.4m x 1.8m	1	木料	2.4m x 1.8m	1	木料	2.4m x 1.8m	1	1
	草帽架	木料	木料	2.4m x 1.8m	1	木料	2.4m x 1.8m	1	木料	2.4m x 1.8m	1	木料	2.4m x 1.8m	1	1
	草帽架	木料	木料	2.4m x 1.8m	1	木料	2.4m x 1.8m	1	木料	2.4m x 1.8m	1	木料	2.4m x 1.8m	1	1
	草帽架	木料	木料	2.4m x 1.8m	1	木料	2.4m x 1.8m	1	木料	2.4m x 1.8m	1	木料	2.4m x 1.8m	1	1

说明：(1) 草帽架高度为 2.4m，(2) 草帽架宽度为 1.8m，(3) 草帽架深度为 0.8m，(4) 草帽架厚度为 0.7m。



①間接費-賃生

20 坪より 2.20 = 賃料の定額に高谷日吉の直接費-外
間接費(賃料 坪数)の各法度で計算し、賃料 2000
坪に算出 (1000坪 1000坪 1000坪 1000坪)
20 坪より 2.20 = 賃料の定額に高谷日吉の直接費-外
間接費(賃料 坪数)の各法度で計算し、賃料 2000
坪に算出 (1000坪 1000坪 1000坪 1000坪)
20 坪より 2.20 = 賃料の定額に高谷日吉の直接費-外
間接費(賃料 坪数)の各法度で計算し、賃料 2000
坪に算出 (1000坪 1000坪 1000坪 1000坪)

②賃料の手当

坪数 2000坪 2.20坪
坪数 2000坪 2.20坪
坪数 2000坪 2.20坪
坪数 2000坪 2.20坪
坪数 2000坪 2.20坪
坪数 2000坪 2.20坪
坪数 2000坪 2.20坪
坪数 2000坪 2.20坪
坪数 2000坪 2.20坪
坪数 2000坪 2.20坪

③賃料の手当

坪数 2000坪 2.20坪
坪数 2000坪 2.20坪
坪数 2000坪 2.20坪
坪数 2000坪 2.20坪
坪数 2000坪 2.20坪
坪数 2000坪 2.20坪
坪数 2000坪 2.20坪
坪数 2000坪 2.20坪
坪数 2000坪 2.20坪
坪数 2000坪 2.20坪

④大工の手当

坪数 2000坪 2.20坪
坪数 2000坪 2.20坪
坪数 2000坪 2.20坪
坪数 2000坪 2.20坪
坪数 2000坪 2.20坪
坪数 2000坪 2.20坪
坪数 2000坪 2.20坪
坪数 2000坪 2.20坪
坪数 2000坪 2.20坪
坪数 2000坪 2.20坪

合計間接費

175坪 80坪 15坪 = 270坪

日 古 金 業 所

运输费	10.00	合计	10.00
-----	-------	----	-------

$$3300 \text{ N} + 3900 = 6200 \text{ N}$$

即此 20 餘年，煙草省 15 萬畝，1954 年 16 萬畝。

三、本報至三、五電（昨更分來2000）11重2 總電部一第422

$$6200^m \times 286^m = 1726000^m \quad \text{工 1 步 20}$$

2010年12月25日 水曜日

張生 42 号

$$1736.0 \times 10^3 + 216 \times 10^3 = 194 \frac{N}{mm^2} \quad (5)$$

然(本)以上ノ方法ニ要テ、投入部ニハ、雄連産ガ産生スル。

2. 若 α, β 是 $\mathbb{R}^n$ 中两个非零向量，且 $\alpha \perp \beta$ ，证明： α, β 是 $\mathbb{R}^n$ 中两个正交基。

$$11.6 \times 10^6 = 430^2 \rightarrow \text{出さるる}$$

總計 共 20 件 (共 20 件) 計算 20

$\frac{1}{2} \times 100 \times 10^6 \times 10^{-6} = 168.2009 \text{ m}^2$

かゝるに 經濟學を以てし、實際又は、極端貧困の力に、はたまた
と、利用せしむ。

8) 今種。右一片挿煙。原価1000

金 烟 葉 膏

上式計算より $1944 \frac{1}{2}$ 年以前に出生した人口が総人口の

封重賞也。事見前。○

② 统计员。

現在筆者の知る、 120° の積角 $\alpha = 30^\circ$ のとき 120°

2007.12.20

從這堆口算係 $200^2 + 1300^2 = 1500^2$ 㗎

④ 旅外处理量

陳述華：石炭紀無刺魚類之研究（上）——以臺灣地區為例

叶面追肥处理与叶面追肥

昭和十三年四月廿二日
日本郵政省
郵便局長官宛
東京郵便局長宛

日 本 郵 政 省

東京 300 円 郵便 120 円 40 円 40 円 40 円 40 円

東京 300 円 郵便 120 円 40 円 40 円 40 円 40 円
東京 300 円 郵便 120 円 40 円 40 円 40 円 40 円

東京 300 円 郵便 120 円 40 円 40 円 40 円 40 円
東京 300 円 郵便 120 円 40 円 40 円 40 円 40 円

東京 300 円 郵便 120 円 40 円 40 円 40 円 40 円

結 語

以上所述各事，均係東莞縣志卷之五，論及東莞之地理志，其
中所述各事，均係東莞縣志卷之五，論及東莞之地理志，其
中所述各事，均係東莞縣志卷之五，論及東莞之地理志，其
中所述各事，均係東莞縣志卷之五，論及東莞之地理志，其

1. 現在之位置，其地係由東莞縣志卷之五，論及東莞之地理志，其
中所述各事，均係東莞縣志卷之五，論及東莞之地理志，其

2. 其地係由東莞縣志卷之五，論及東莞之地理志，其
中所述各事，均係東莞縣志卷之五，論及東莞之地理志，其

3. 其地係由東莞縣志卷之五，論及東莞之地理志，其
中所述各事，均係東莞縣志卷之五，論及東莞之地理志，其

4. 其地係由東莞縣志卷之五，論及東莞之地理志，其
中所述各事，均係東莞縣志卷之五，論及東莞之地理志，其

以上所述各事，均係東莞縣志卷之五，論及東莞之地理志，其

決	7719		別添番号 42		7
談	原 議 音				
専断取締役		常務取締役		部 長	関係部署
費 目 別	品 目	開 区	数	起	室
和 (幣)・票 数	   				
件 名	丹波同族炭工取及 株明細工事 有限会社 藤 高組		全 額	38,400	
発注先	丹波同族炭工取及 株明細工事 有限会社 藤 高組		着手予定日	昭和26年2月1日	
			完成予定日	昭和26年2月7日	
結 算	支払条件		契約方法		
品名又は名称	規格又は型式	数量	単位	単 価	金 額
炭 量					38,400
計					38,400
備 考 炭炭残及残稿とも現在使用にあらす此の儘放置しますと腐朽しますので解体致し度く要議致しす 尚使用可能資材は海入炭炭及残稿工取材として使用致しす					

総務-般用原簿5号

(市式部函3号付)

33.12 1×100×30



決	所内		収蔵番号 AG 6	
裁	審 議 書			
専務取締役	常務取締役	部 長	関 係 部 課	
費 目 別	所 長	関 係 課	部 課	
起・(費) 業 費				
件 名	白岩光機精炭和ソケット		金 42,720	
発注先	有限会社 藤島組		着手予定日 昭和36年11月1日	
納 期	支払条件		完成予定日 昭和36年12月31日	
品名又は名称		単位	数量	単価
岩猪骨 第一期工事				21360
第二期工事				21360
合計				42720
出 白岩光機精炭和ソケット口及壁板等腐朽、 数に現状使用し而ては、収 態であり至急補 修数量(概算)数です。 尚、11月第一期工事、12月第二期工事として 着手いたします。				

建設一般用書式 第 5 号

(様式別第 1 号 並)

第 17 号 3×100×50



決 算	所収		決議番号 42 5	
決 算	京 議 市			
専 断 取 締 役	専 断 取 締 役	部 長	関 係 部 課	
費 目 別	商 品	国 貨	型 号	記 号
配・付・業 費				
件 名	付着不仕外カープラ基礎補修工事		金 額	6,800
周知先	有限会社 藤島組		着手予定日	昭和26年10月22日
			完成予定日	昭和26年10月22日
納 期	支払条件		契約方法	
品名又は名称	照付又は型式	数量	単位	単 価
労務費				6,800
合 計				6,800
理由 カープラ基礎埋立地のため地盤が沈下し 原動機据付コンクリート台が不安定であります ので至急補修致し度く稟議致します				

造作一覽表用紙(5面)

(市式第4号B)

35.12 1×100×50



決	2014		原簿番号 42 4-1	
裁	審議書			
専務取締役	常務取締役	部長	関係部署	
費目別	所長	関係部署	総室	
総・費・業費				
件名	杉谷五尺地の増築地の 調査探掘	金額	概算 1,500円	
発注先	山田市大字下山田 山田屋太	着手予定日	昭和44年8月1日	
納期	出図のそつど	支払条件	現金/前金	
品名又は名称	増築地は形式	数量	単位	備考
有無	杉谷上二尺地 ・下二尺地の増築 ・本	1,500	円	月400円の 出戻予定
理由 杉谷五尺地は三枚の代替地として開拓し、直線にて新築の増築条件に 対応せる区域の増築のみを終了したので、残部区域の増築量既ち増築の増築 条件に対応せる増築の完全探掘を目的とし、又それにより増築本体外の出戻 としてプラスとなり、亦直営より原価ダウンにして且増築の増築管理もな く右増築地の上つては何時でも中止せざるを得る、増築探掘に切替え致したく 本増築を申請します。 詳細の内容は別紙の通りであります。				

原簿一紙七面入り部

(用式原簿1号B)

35.32 1×100×50

杉谷五叉地の打遊炭の探掘調査報告書

1) はじめに

杉谷五叉地は三叉の代官地として開墾し、直轄にて探掘の探検地として対応せる区域、探掘のみを認めたのであるが、調査探掘を実施すれば炭田区域、炭田量、探掘も可能であるので、その資金探掘はコストダウンを目的とし、更に検討した結果炭田の地、炭田されるのでこれに基いて出炭も有りて、山辺炭田部に探掘調査を致さねた本調査を申請するものであります。

2) 生産原因の検討

地口生産原因計表は炭田のカーネ、通り作成しました。

その作成を旨、概略を記述すると

- ロ 明治25年頃の炭田生産、炭田生産として文を参考に見た。
- ロ 炭田の場合、炭田の場合、炭田の場合による炭田の生産を作成し、比較検討を容易にした。
- ハ 炭田の炭田は現在、炭田の場合を考慮せず炭田の炭田。
- ニ 炭田を炭田として炭田。

4. 切手紙金は田舎金銀、ペスアツフ前、金と取引した。

その量子中

A. 物買金について

1. 金銀………は自国産金銀の買入と買出の差額を指す。

2. 金銀………は自国産金銀の買入と買出の差額を指す。

金銀………は自国産金銀の買入と買出の差額を指す。

金銀………は自国産金銀の買入と買出の差額を指す。

金銀………は自国産金銀の買入と買出の差額を指す。

B. 金銀

金銀………は自国産金銀の買入と買出の差額を指す。

金銀………は自国産金銀の買入と買出の差額を指す。

金銀………は自国産金銀の買入と買出の差額を指す。

金銀………は自国産金銀の買入と買出の差額を指す。

C. 金銀

金銀………は自国産金銀の買入と買出の差額を指す。

金銀………は自国産金銀の買入と買出の差額を指す。

金銀………は自国産金銀の買入と買出の差額を指す。

金銀………は自国産金銀の買入と買出の差額を指す。

金銀………は自国産金銀の買入と買出の差額を指す。

金銀………は自国産金銀の買入と買出の差額を指す。

金銀………は自国産金銀の買入と買出の差額を指す。

金銀………は自国産金銀の買入と買出の差額を指す。

D. 金銀

金銀………は自国産金銀の買入と買出の差額を指す。

金銀………は自国産金銀の買入と買出の差額を指す。

金銀………は自国産金銀の買入と買出の差額を指す。

金銀………は自国産金銀の買入と買出の差額を指す。

金銀………は自国産金銀の買入と買出の差額を指す。

金銀………は自国産金銀の買入と買出の差額を指す。

金銀………は自国産金銀の買入と買出の差額を指す。

金銀………は自国産金銀の買入と買出の差額を指す。

金銀………は自国産金銀の買入と買出の差額を指す。

金銀………は自国産金銀の買入と買出の差額を指す。

金銀………は自国産金銀の買入と買出の差額を指す。

金銀………は自国産金銀の買入と買出の差額を指す。

金銀………は自国産金銀の買入と買出の差額を指す。

金銀………は自国産金銀の買入と買出の差額を指す。

子孫運命に絶望の故に母を殺し、父を殺す

- ・道中車(乗客)は1日3回往復とみなす

$$3^3 \times 70^6 = 210^6$$

- #245-42

2/20/74 2:40 PM

- 竹 月 土 11 の 5 路 の 支 柱 附

$$100^2 \times 10^6 = 1.0076$$

12607

- **தமிழ்**

保安用品：物品必須符合數、規定者，保險、作業服、書等

南征记代 2003

- * 文庫の成り立ち等、諸君へ。

1967 2247

その経済的割合は

10,000 1/2

以上の如く、 $\mathcal{A}$ の $\mathcal{A} \cap \mathcal{B}$ 上の制限は、

8. 勞務費について.

- ## 1. 基準賃金について

本邦6月ベースグラフの前年当分の数値を基礎別平均額金を基準として

算出した。その詳細は国産生産家経済表の編纂に記載した。

6. 又第2次および3次の賞金は総賞金の30%といふ方へ

和能五又焼の焼印の状況、出費等より判断し決定した

即ち、 π 係数大人愛は、

朝鮮文(境内移転) 漢文文(国外移転) 季節の各ノ動は日本人
同であるのを試した。

朝鮮文の男ノ人 数ノ数々を記録しているのは比較的よく
出ノ石炭および銅等と言ふ地産を記録したり地産の輸出
の近給外輸移のため使われる人間である。

C 法定額問題について

法定額問題は記録では明確な数字がある。この統計の算
入の数字としてある。

D 賞金について

賞金の額は出金に通りである。

賞金は賞金はないという規定を計算している。

E 警察手帳について

賞金の額は出金に通りである。

賞金もよる賞金は支給しないという規定を計算している。

以上の通り警察手帳をもちしたが、お金と賞金の今後の検査資料は
警察手帳の基準として採用した。昭和は警察に比較して悪いとい
う。はつきり鑑定される。

昭和 35年度の出産記録はそのほとんどが在日朝鮮人であり、又その
検査した記録は検査となっていたお金の検査の調査地点であった。

従って、対朝鮮検査記録をもとに、報告書をもとにした。昭和 35

後はおく、この採掘区域は定かでないが、この採掘条件の不規則
 経営等なればならぬと思われる。

② 採掘費用および採掘量

採掘に要する採掘費は採掘量に比例、採掘量に比例する
 ので計算される。

その採掘量と区域は採掘区域に表す通り、幾何図形であるので、
 予想と出る採掘量は次の通りと想定す。

採掘 区域	採掘量(トン)	採掘費(円)	採掘量(トン)	採掘費(円)
左の区域	1,200	1,470	2,200	2,680
右の区域		1,800		1,800
左の区域		400		400
右の区域		2,400	2,400	2,400
合計	2,600	4,670	5,000	7,280

かくしてこの採掘量は上表の通り、2,600トンであり、採掘費用は
 採掘量に比例して上回ると思われる。

従って、採掘費用は $2,600 \times 2.80 = 7,280$ 円、
 少くとも9月分はと計算される。

③ 採掘量の採掘費額

採掘に要する費用は、採掘量に比例して計算される。
 その方法は、

イ 計算

計算にたいして入り増し、入り増し者は自給の現貨通り採掘。

原標品位による収収表

コロニー	原標品位 の132	収収 %	歩留 %	結晶率 100% 100%	結晶率 100% 100%
4000	600	47	58	0.100	1.235
4100	610	46	58	0.100	1.249
4200	610	46	62	0.100	1.216
4300	600	47	63	0.100	1.229
4400	600	47	68	0.100	1.266
4500	610	47	67	0.100	1.500
4600	600	47	69	0.100	1.277
4700	600	47	71	0.100	1.273
4800	600	47	76	0.100	1.249
4900	600	47	77	0.100	1.286
5000	600	47	79	0.100	1.740

5) 竹炭水素酸における収収比

竹炭水素酸より収収した結晶の収収比は、水素酸の収収比、結

晶率の収収比に等しいと推定する。

その収収比は次の通りとなる。

収収比	水素酸	結晶	収収比	収収比
収収比	10%	46%	46%	100%
収収比	10%	46%	46%	100%
収収比	10%	46%	46%	100%

6) 簡便の平均規定売込値 (44%)

$$\frac{\text{平均値}}{\text{平均値}} = \frac{\text{平均値}}{\text{平均値}} = \frac{44\% \times 100}{100} = 44\%$$

簡便の平均規定売込値である。簡便と、売込値とをみるため
算出したものであり、生産原価と売込値との対比の爲、一見
象として算出したものである。

7) 簡便の決定について

上記の44%算出した生産原価を基準とし、簡便にて会社に
利潤があるならば原価の直割より高値となる。簡便とある
保証より安く、且又簡便にも努力による利益があるとい
う簡便の他、希望ましい。という考え方で簡便による原
価の組立による原価の中間値にて簡便の決定すること
最も妥当な線があると思えます。

即ち、組立一長、組立計長、組立の七割に各々44%
簡便の場合、144%であり、組立の場合、144%である
ので $144\% \times 144\% = 207.36\%$ となる。144%の
簡便の場合、144%に決定したいと算出します。
この簡便の算出にて決定した場合に比較して

$$144\% - 100\% = 44\% \text{ の差となる}$$

二項下の組立、組立、組立は簡便による利益は簡便と
思われるが簡便にて決定した場合に比較して思える

$$100\% - 144\% = -44\% \text{ の差となる。}$$

以上の問題は、従来のマス・ブレイクによる物産展、展示場、
あるいは現成に對した場合は、これよりプラス面の大きくなる
ことは論を待たない。

4) 徳島煉瓦の利便

大きな利便の点の列挙すると

- 1) 煉瓦直置きは、恒常的建築材料に比して、その高、低、不飽和と照
わける既成区域、採掘が可能となる。
- 2) 採掘費よりもコストが安い。
- 3) その敷地の石炭状態に利便に容易に中止を得る。
- 4) 煉瓦を容易に管理と保存としない。
- 5) 煉瓦煉瓦の利便は、炭外であるので、出炭はプラス出炭とな
り、従って全般的コストダウンとなる。

5) 結論

以上の如く、お前正七地は、石炭の煉瓦煉瓦に對して、地味の面を
、1500坪の煉瓦煉瓦に換したく、又その業者は、多量高利に於て、
煉瓦煉瓦に定地し、その煉瓦、入地、煉瓦、寄上、最も適利な
山辺、水郷に、増産したく、存じます。

会民において、お前正七地の煉瓦、煉瓦、煉瓦、煉瓦、煉瓦、煉瓦、
は、前述の通りでありますので、煉瓦、煉瓦、煉瓦、煉瓦、煉瓦、煉瓦、
と、煉瓦、煉瓦、煉瓦、煉瓦、煉瓦、煉瓦、煉瓦、煉瓦、煉瓦、煉瓦、

判断するに非難の餘地は無いかと恐るるを
全代の手紙に附し、附送の紙と並列する様紙を申請するもの
であります。

以上

卷一 彩名五尺瓶 瓶口生塵原酒封蓋表

[備 考] (A) 物品費の取極について

《对死不利罪过》采用了“死亡现在”的三分法(图例4)

2. 起 承 石巻の砂浜には秋風が吹来する。海水が冷たい。(場合)
3. 描 象 には、22のがある。加えて(管対風と海)は砂浜の砂である。
4. その他物品 塩漬鮎 (海苔、干し鮎、干し鮎、干し鮎)
内 訳 木村君 (木村君、木村君、木村君、木村君)
木村君 (木村君、木村君、木村君、木村君)

(8) 労務費の算出について

[illegible]

- | 北鎮水—揚市 | | 揚市—北鎮水 | |
|--------|------|--------|--------|
| 1 綠原土 | 7.11 | 92% | 427.96 |
| 2 填土 | 7.11 | | 419.96 |
| 3 泥炭 | 4.7 | | 227.0 |
| 4 泥炭 | 3.3 | | 227.0 |
| 5 泥炭 | 2.8 | | 227.0 |
| 6 泥炭 | 3.3 | | 227.0 |
| 7 泥炭 | 2.8 | | 227.0 |

(c) 或足額利息 8.00%

成定経刊前は定論とはいへず、一考の所と
なつてゐるのを、余は遺憾を覚へ、論として脱稿す。

- (D) 富士山の標高は3776メートルである。

表

新五支組に於ける 労務費の諸手当(兼 牛)算出表 (1日額)

諸 手 当	定 額 支 出 の 場 合							定 額 支 出 の 場 合						
	定 額	日 額	定 額	日 額	定 額	日 額	定 額	定 額	日 額	定 額	日 額	定 額	日 額	定 額
兼 牛	2.25	1.125	1.25	0.625	1.25	0.625	1.25	1.25	0.625	1.25	0.625	1.25	0.625	1.25
労務費	8.25	4.125	7.0	3.5	6.0	3.0	5.0	5.0	2.5	4.0	2.0	3.0	1.5	2.0
諸手当								5.75	2.875	4.75	2.375	3.75	1.875	2.75

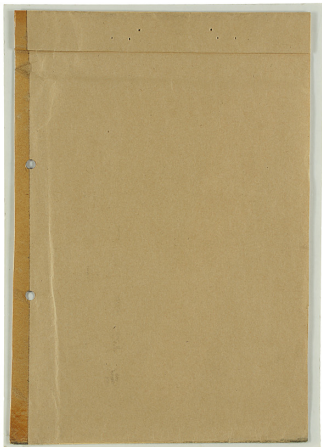
註

ノ諸手当一級額別ノ日額ハ前表ノ日額ニ乗リテ算出ス。



昭和26年度 杉谷五反地 杉木の伐採使用量調査表 (東端)

科品別	細目 出家 数量	上期 (前年度)				下期 (前年度)				25年合計			
		上期計		月平均		下期計		月平均		年計		日平均	
		数量	割合	数量	割合	数量	割合	数量	割合	数量	割合	数量	割合
炭	薪炭	267.162	0.10	44.527	0.10	198.562	0.076	33.092	0.076	448.724	0.093	38.810	0.073
	薪炭	0.91.934	0.003	31.989	0.003	84.206	0.0027	92.812	0.0027	100.140	0.0023	90.060	0.0015
	炭	738.076	0.113	126.516	0.333	789.762	0.303	131.623	0.303	1898.864	0.393	123.072	0.240
	炭	0.90.340	0.003	31.723	0.003	82.179	0.003	62.676	0.003	87.259	0.002	72.710	0.0014
水	全額薪炭	807.266	0.116	107.247	0.336	769.742	0.277	124.862	0.277	1536.938	0.315	110.066	0.214
	炭	1.097.608	0.157	182.234	0.477	1.111.351	0.427	188.558	0.427	2.228.957	0.467	185.706	0.363
火	薪炭	9.64 ¹⁰⁰	0.000	1.60 ¹⁰⁰	0.000	7.61 ¹⁰⁰	0.000	1.26 ¹⁰⁰	0.000	17.26.35 ¹⁰⁰	0.000	14.2 ¹⁰⁰	0.000
	薪炭	6.405	0.001	1.067	0.001	5.240	0.002	8.73	0.002	11.645	0.002	7.70	0.0015
	薪炭	6.405	0.001	7.067	0.001	5.240	0.002	8.73	0.002	11.645	0.002	7.70	0.0015
	薪炭	190.827	0.026	31.771 ¹⁰⁰	0.084	107.182	0.039	24.545	0.056	337.779	0.007	28.140	0.053
水	全額薪炭	120.643	0.016	21.407 ¹⁰⁰	0.058	102.567	0.037	17.074	0.037	231.010	0.005	19.251	0.036
	薪炭	120.643	0.016	21.407 ¹⁰⁰	0.058	102.567	0.037	17.074	0.037	231.010	0.005	19.251	0.036





今

抄
谷
五
尺
五

坂
内
同



杉谷五尺坑 坑内圖 縮尺六百分ノ一



福岡県嘉穂郡稲築町大字才田本谷三二六ノ一

(稲築区内)

共同石炭
鉱業株式会社

日吉礦業所

電話 稲築四三〇番
大限一一番

昭和
年
月
日

商 議	所 内				申請番号 42-30(2)			
社 長	副 社 長	専務取締役	常務取締役	部 長	関 係 部 課			
費 目 別	所 長	関 係 部	配 部					
配・附・業 費								
件 名	回収端石粉諸員筆面件			金 額				
期 間				着手予定日 昭和 年 月 日				
				完成予定日 昭和 年 月 日				
納 期	支払条件			受取方法				
品名又は名称	規格又は型式	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考		
端石粉	基準 700-4000	700	kg					
上記基準の材料検査費を付し買上とする								
从価税基準 = 10000増減 1.5% 18000増減 1.5%								
買上 1.5% 向端石粉 2.5% 18000増減 1.5%								
理由 明記 理由 1.5%								

全紙一層山草紙7度

(自式用紙1号A)

38.12 1=300×50



次		第 1 次		原簿番号 142	
製		製 議 會			
社 長	副 社 長	専務取締役	常務取締役	監 査 人	監 査 人
費 目 別	所 長	開 議 期	起 算		
給・費・費	費				
作 業 回 収 口 折 算 額 計 算 表					
発注先		着手予定日 昭和 年 月 日			
		完成予定日 昭和 年 月 日			
納 期		支払条件		支払方法	
品名又は名称		規格又は型式		数量	単 価
1. 電気工事費		1. 電気工事費		1. 100	1. 100
2. 電気工事費		2. 電気工事費		2. 100	2. 100
3. 電気工事費		3. 電気工事費		3. 100	3. 100
4. 電気工事費		4. 電気工事費		4. 100	4. 100
5. 電気工事費		5. 電気工事費		5. 100	5. 100
6. 電気工事費		6. 電気工事費		6. 100	6. 100
7. 電気工事費		7. 電気工事費		7. 100	7. 100
8. 電気工事費		8. 電気工事費		8. 100	8. 100
9. 電気工事費		9. 電気工事費		9. 100	9. 100
10. 電気工事費		10. 電気工事費		10. 100	10. 100
11. 電気工事費		11. 電気工事費		11. 100	11. 100
12. 電気工事費		12. 電気工事費		12. 100	12. 100
13. 電気工事費		13. 電気工事費		13. 100	13. 100
14. 電気工事費		14. 電気工事費		14. 100	14. 100
15. 電気工事費		15. 電気工事費		15. 100	15. 100
16. 電気工事費		16. 電気工事費		16. 100	16. 100
17. 電気工事費		17. 電気工事費		17. 100	17. 100
18. 電気工事費		18. 電気工事費		18. 100	18. 100
19. 電気工事費		19. 電気工事費		19. 100	19. 100
20. 電気工事費		20. 電気工事費		20. 100	20. 100
21. 電気工事費		21. 電気工事費		21. 100	21. 100
22. 電気工事費		22. 電気工事費		22. 100	22. 100
23. 電気工事費		23. 電気工事費		23. 100	23. 100
24. 電気工事費		24. 電気工事費		24. 100	24. 100
25. 電気工事費		25. 電気工事費		25. 100	25. 100
26. 電気工事費		26. 電気工事費		26. 100	26. 100
27. 電気工事費		27. 電気工事費		27. 100	27. 100
28. 電気工事費		28. 電気工事費		28. 100	28. 100
29. 電気工事費		29. 電気工事費		29. 100	29. 100
30. 電気工事費		30. 電気工事費		30. 100	30. 100
31. 電気工事費		31. 電気工事費		31. 100	31. 100
32. 電気工事費		32. 電気工事費		32. 100	32. 100
33. 電気工事費		33. 電気工事費		33. 100	33. 100
34. 電気工事費		34. 電気工事費		34. 100	34. 100
35. 電気工事費		35. 電気工事費		35. 100	35. 100
36. 電気工事費		36. 電気工事費		36. 100	36. 100
37. 電気工事費		37. 電気工事費		37. 100	37. 100
38. 電気工事費		38. 電気工事費		38. 100	38. 100
39. 電気工事費		39. 電気工事費		39. 100	39. 100
40. 電気工事費		40. 電気工事費		40. 100	40. 100
41. 電気工事費		41. 電気工事費		41. 100	41. 100
42. 電気工事費		42. 電気工事費		42. 100	42. 100
43. 電気工事費		43. 電気工事費		43. 100	43. 100
44. 電気工事費		44. 電気工事費		44. 100	44. 100
45. 電気工事費		45. 電気工事費		45. 100	45. 100
46. 電気工事費		46. 電気工事費		46. 100	46. 100
47. 電気工事費		47. 電気工事費		47. 100	47. 100
48. 電気工事費		48. 電気工事費		48. 100	48. 100
49. 電気工事費		49. 電気工事費		49. 100	49. 100
50. 電気工事費		50. 電気工事費		50. 100	50. 100
51. 電気工事費		51. 電気工事費		51. 100	51. 100
52. 電気工事費		52. 電気工事費		52. 100	52. 100
53. 電気工事費		53. 電気工事費		53. 100	53. 100
54. 電気工事費		54. 電気工事費		54. 100	54. 100
55. 電気工事費		55. 電気工事費		55. 100	55. 100
56. 電気工事費		56. 電気工事費		56. 100	56. 100
57. 電気工事費		57. 電気工事費		57. 100	57. 100
58. 電気工事費		58. 電気工事費		58. 100	58. 100
59. 電気工事費		59. 電気工事費		59. 100	59. 100
60. 電気工事費		60. 電気工事費		60. 100	60. 100
61. 電気工事費		61. 電気工事費		61. 100	61. 100
62. 電気工事費		62. 電気工事費		62. 100	62. 100
63. 電気工事費		63. 電気工事費		63. 100	63. 100
64. 電気工事費		64. 電気工事費		64. 100	64. 100
65. 電気工事費		65. 電気工事費		65. 100	65. 100
66. 電気工事費		66. 電気工事費		66. 100	66. 100
67. 電気工事費		67. 電気工事費		67. 100	67. 100
68. 電気工事費		68. 電気工事費		68. 100	68. 100
69. 電気工事費		69. 電気工事費		69. 100	69. 100
70. 電気工事費		70. 電気工事費		70. 100	70. 100
71. 電気工事費		71. 電気工事費		71. 100	71. 100
72. 電気工事費		72. 電気工事費		72. 100	72. 100
73. 電気工事費		73. 電気工事費		73. 100	73. 100
74. 電気工事費		74. 電気工事費		74. 100	74. 100
75. 電気工事費		75. 電気工事費		75. 100	75. 100
76. 電気工事費		76. 電気工事費		76. 100	76. 100
77. 電気工事費		77. 電気工事費		77. 100	77. 100
78. 電気工事費		78. 電気工事費		78. 100	78. 100
79. 電気工事費		79. 電気工事費		79. 100	79. 100
80. 電気工事費		80. 電気工事費		80. 100	80. 100
81. 電気工事費		81. 電気工事費		81. 100	81. 100
82. 電気工事費		82. 電気工事費		82. 100	82. 100
83. 電気工事費		83. 電気工事費		83. 100	83. 100
84. 電気工事費		84. 電気工事費		84. 100	84. 100
85. 電気工事費		85. 電気工事費		85. 100	85. 100
86. 電気工事費		86. 電気工事費		86. 100	86. 100
87. 電気工事費		87. 電気工事費		87. 100	87. 100
88. 電気工事費		88. 電気工事費		88. 100	88. 100
89. 電気工事費		89. 電気工事費		89. 100	89. 100
90. 電気工事費		90. 電気工事費		90. 100	90. 100
91. 電気工事費		91. 電気工事費		91. 100	91. 100
92. 電気工事費		92. 電気工事費		92. 100	92. 100
93. 電気工事費		93. 電気工事費		93. 100	93. 100
94. 電気工事費		94. 電気工事費		94. 100	94. 100
95. 電気工事費		95. 電気工事費		95. 100	95. 100
96. 電気工事費		96. 電気工事費		96. 100	96. 100
97. 電気工事費		97. 電気工事費		97. 100	97. 100
98. 電気工事費		98. 電気工事費		98. 100	98. 100
99. 電気工事費		99. 電気工事費		99. 100	99. 100
100. 電気工事費		100. 電気工事費		100. 100	100. 100

昭和十一年四月一日

(印) 電気工事費

昭和十一年四月一日

_____ 年 _____ 月 _____ 日

國立嘉義大學圖書館

共同石炭鉱業株式会社

日吉館樂所

別本也（全五起量）

⑥回收料:石粉度(细度)为 200 目。

現在地石田牧場：標準 *Neocal* 1200/15 = 1 夏 27.1 20.8 0.7

燒石粉，就14層樓的圓柱，場合標準 1400 cal 以上 52 毫 14

困難に突く cal = 4240 cal (11月 4240 cal 11月 4260 cal) 11月

全燒石粉 4250 cal 買上+3場名

① 塊石單位重 ($\text{direct} \quad 1200 \text{ kg/m}^3$) の計算式は

$$1400 - 4200 = 1200 \frac{\text{cal}}{\text{mol}} = 67 \text{ kJ}$$

$$1200 = 694 = 82.5\% \left[\frac{1}{2} \right] \quad \text{—————(7)}$$

2) 可燃熱單位 (2000 cal 2000 J) に計算する。

$$4240 \text{ drop} = \mu\text{ft} \times \frac{10}{100} = 425 \text{ ft}$$

$$425 + 250 = 675 \text{ R/R} \text{ ————— (1)}$$

例 (2) (1) $\Rightarrow$ 3.6 の例 (1) と同様、軌道面が水平面と傾斜角 θ を有する場合は

④ 300 例は、電圧が 50V の場合、理 1 の 44% 以上で、単純に構成された基準 C_{el}

$$\partial \frac{\partial}{\partial t} u - m_1 u^2 = E(u) + \frac{1}{2} \|u\|_{L^2}^2.$$

4. 煅石膏与煤焦油 CaSO_4 与煤焦油按 1:1 4:1 或 CaSO_4 与 20% 煤焦油 4:1

約相当年間要須又南煙及銅石の CaF_2 の概計は、得る所あり。

24- 鎂石標定 4,200 Cal 268.4/2.0 = 1,100 Cal = 32.6 kJ 1 至 2 次 = 20 日 = 2 次 = 1 日

1) 抽提物 *ex. extract* 的提法

新單/油質上+2碼台 $1600 - 4.200 = 1400 = \frac{14}{100} = 700 \text{ 元} + 700 = 1400 \text{ 元}$
 $\frac{1400}{1.200 \text{ 元}}$

100

2) 堆石率50% 4200 t2/476台

計算價格上漲指數 $= 4200 - 4200 \times 10\% \times \frac{60}{360} = 4200 - 700 = 3500$

No. 二

昭和 一 月 日

福岡県福岡市南区大字

共同石灰工業株式会社

日吉 鉱 業 所

増量田買上算出

525月

至 525月算

以上+22C 増量田上算算出の同-CaH₂増量田買上金額比率=200月算45%但し 増量田買上算出の同-CaH₂増量田買上金額比率=200月算45%

総論

増量田買上算出

基準 900- 4200 cal

買上算出 700月算

上記基準900-1100 cal増減15%以上+75月算増減11%以上

但し 増量田買上算出の同-CaH₂増量田買上金額比率=200月算45%

3

決裁印	関係部	元業務課	
	  		
所内稟議書			
原炭回収諸員の件			
1 発注先 山辺組代表 山辺寛太郎			
2 着手予定 昭和36年10月11日			
3 支払条件 翌月17日現金交付			
4 契約方法 契約書締結 (14番付 所直)			
摘要			
回収炭種	基準加算	単位 買上単価 備 考	
12 有煙炭	3,000	〒 250 ^円	
14 有煙炭	5,000	〒 1,000 ^円	
24 無煙炭	5,600	〒 1,200 ^円	
上記の基準より検収数量に応じて買上する			
30 但し上記の基準に100%増減する毎に1年につき50%を増減して買上する			
協定額	4,200	〒 700 ^円	
理由 ① 増収目標達成に際し炭の回収を計る			
② 炭炭回収より静港氏の共済及び厚労関係の救済を計る			
③ 炭炭回収より利便を計る			
上記の理由により炭炭回収が直接人員に利益がないうので本件を請負作業とする			
12,600kg 換算			
送付 関係部 所長 各十部局 (昭和36年10月11日)			

054130

DIRECT COPY SYSTEMS

御見積書

昭和三十一年十月五日

共同石灰鉱業株式会社
白岩分業所々長 梅田 義雄 殿

回收有煙粉 屯 250円

回收有煙塊 屯 1,000円

回收 炉石 屯 1,200円

但 檢收方法等ニ付テハ一切
会社ノ指示ニ従ヒマス

上記ノ面ノ御見積致シマス

山田市下山田町九

山田 廣太郎 印

原炭回收の整理資料

聖武天皇の宸廬

- ① 有意识性硬变: 为进行性硬变的一种特殊类型, 多见于 40-50 岁男性, 其特点为:
 - ① 常发生于双侧上肢腕部, 随工作之加重而加重, 严重者波及前臂、肘部、肩部、颈部、手、足、腰、背、臀、腿、脚等部位。
 - ② 硬变部位皮肤增厚、变硬、失去弹性, 触之如橡皮样。
 - ③ 严重者可有疼痛、麻木、活动受限等。

聖德園牧一應司

- ① 貨物運搬時、その積の操作が笨重になる
- ② 乗車の回転軸等により若干影響する
- ③ 板金業指の若干笨重になる
- ④ 設備費増進が少なくなる

(連續上) 4 次圓收可能出散度差數

甲方	乙方	計
12.3	12.3	24.6
12.3	12.3	24.6
12.3	12.3	24.6

上列数据为既是正数又为原度提取值并任从容值若为

成分 63% Call 3.100 番号 474

十、漢經別 精義 論

有連折	2,000 Call	216.0
有連限	4,000 Call	2.0 点
折 入	6,000 Call	2.0 点
計		26.0 点

(表體別 精皮月表)

✓ 考分 $x = \frac{76 - 48}{26 - 24} \cdot \frac{12}{12} = 0.26$

1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10. 11. 12. 13. 14. 15. 16. 17. 18. 19. 20. 21. 22. 23. 24. 25. 26. 27. 28. 29. 30. 31. 32. 33. 34. 35. 36. 37. 38. 39. 40. 41. 42. 43. 44. 45. 46. 47. 48. 49. 50. 51. 52. 53. 54. 55. 56. 57. 58. 59. 60. 61. 62. 63. 64. 65. 66. 67. 68. 69. 70. 71. 72. 73. 74. 75. 76. 77. 78. 79. 80. 81. 82. 83. 84. 85. 86. 87. 88. 89. 90. 91. 92. 93. 94. 95. 96. 97. 98. 99. 100.

$$100^{23} = 0.96 = 2 \cdot 10^{23} \approx 0.2 \text{ eV}$$

| | |
|-----|------|
| 青提子 | 0.25 |
| 玫瑰 | 0.50 |
| 沙石 | 1.20 |
| 計 | 6.32 |

費用表(要領)

| | | | |
|--------------|------------------------------------|---------------------|--|
| 圓形輪 | 180 | 250 ^円 | |
| 花 床(600x140) | | 1300 ^円 | |
| 紙張(金銀) | | | 合計見込金額は3金額 |
| 紙張 | 200 ^円 x 42 ^枚 | = 8400 ^円 | 200 ^円 x 42 ^枚 = 8400 ^円 |
| 圓形輪 | 160 ^円 x 28 ^枚 | = 4480 ^円 | 160 ^円 x 28 ^枚 = 4480 ^円 |
| 計 | | 4480 ^円 | 6980 ^円 |

使用費はその内経

男 3人 x 350^円 = 1050^円 男 4人 x 4人にて有経験 20 紙幣取扱と分業場に
男 1人 x 500^円 = 500^円 送り戻し 10 紙幣取扱と分業場に構え
女 4人 x 200^円 = 800^円 第 1 選 10 紙幣取扱と分業場に送り戻し 2 紙幣取扱
と分業場の 1 紙幣取扱と分業場に送り戻し 2 紙幣取扱
男 4人 x 350^円 = 1400^円 3 分業場の 1 紙幣取扱と分業場に送り戻し 2 紙幣取扱
と分業場に送り戻し 2 紙幣取扱と分業場に送り戻し 2 紙幣取扱

計 2370^円

その他諸費

紙張別利息 200^円

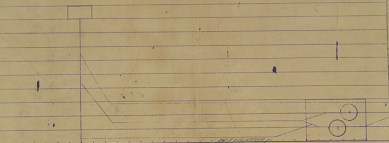
紙 費 100^円

(使用機材 ベビーコンベヤー)

合計見込 2570^円

設備市況

毎日 16 紙幣の精算をサーパークの中を通り送り本は分業場と見ますので
用費料を利用したい。



100 x 100

100
200
300

DIRECT COPY SYSTEM

CC

所内稟議

| | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--|------------|---------|-------|------------------|-----|-------|-----|-----|-----|-----|-----|---------|--|--|--|--|--|
| 決 | 稟議番号、442 2 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 議 | 議 議 書 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 専務取締役 | 常務取締役 | 部 長 | 関係部課 | | | | | | | | | | | | | | |
| <table border="1"> <tr> <td>費 目 別</td> <td>所 長</td> <td>課 長</td> <td>係 長</td> <td>記 帳</td> <td>審 査</td> </tr> <tr> <td>地・賃・運 費</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> | | | | | | 費 目 別 | 所 長 | 課 長 | 係 長 | 記 帳 | 審 査 | 地・賃・運 費 | | | | | |
| 費 目 別 | 所 長 | 課 長 | 係 長 | 記 帳 | 審 査 | | | | | | | | | | | | |
| 地・賃・運 費 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 作 名 | ガス管 購入の件 | | 金 額 | 143,325 | | | | | | | | | | | | | |
| 発注先 | | | 着手予定日 | 昭和 28 年 10 月 後 日 | | | | | | | | | | | | | |
| | | | 完成予定日 | 昭和 28 年 月 日 | | | | | | | | | | | | | |
| 納 期 | 10月 8日 | 支払条件 | 契約方法 | | | | | | | | | | | | | | |
| 品名又は名称 | 規格又は形式 | 数 量 | 単位 | 金額 | 備 考 | | | | | | | | | | | | |
| ガス管 2.155" 55# 4.15" | | 2205 kg | 65 | 143,325 | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 理 由 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>海軍八咫宮内上郡右1片の括弧約50m
 掘通し燐石 探炭のため上記の掘り入要に付
 購入致し度 稟議 致します。
 尚用済の場合は追次 他の掘通しに充
 用 致します。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | |

製紙一社(国数5部)

(様式第百1号B)

第 32 1×100×50

| | | | |
|---------------------|------------------|----------|---------------|
| 氏 名 | | 製造番号 No. | |
| 姓 名 <u>新保 清 吉</u> | | | |
| 専修取締役 | 常務取締役 | 専 長 | 関係部署 |
| 費 目 別 所 長 関 係 課 長 交 | | | |
| 起・費・差 費 費 | | | |
| 件 名 <u>誰 持</u> | | | |
| 金 額 | | 266.00 | |
| 着手予定日 | 昭和 26 年 10 月 1 日 | 期 和 | 26 年 10 月 1 日 |
| 完成予定日 | 昭和 26 年 10 月 1 日 | 期 和 | 26 年 10 月 1 日 |
| 結 算 | 支払条件 | 契約方法 | |
| 品名又は名称 | 規格又は型式 | 数 量 | 単 位 |
| 懐 表 灯 | 40W | 124 | |
| " | 20W | 44 | |
| 計 | | | |
| 金 額 | | 1600 | |
| 金 額 | | 3500 | |
| 金 額 | | 206.00 | |

理由
不用品除所経費用にて購入致した
氣浅銀行

